



新春を

カメラ
がゆく



1月7日 交通指導隊初出式



1月8日 市民書初め大会



1月13日 市民新春囲碁大会



1月10日 大滝温泉スキー場オープン

われらが町内 わがグループ

湯けむりに包まれて
魅力ある地域づくり
—別所地区—



四方を山に囲まれた
別所地区
温泉は地区住民の
コミュニティサロン

国道103号線を十二所から南へ2*、余り入った、四方を山に囲まれた集落、ここが「別所」です。

世帯数84、人口415人、市内では中規模の集落です。

今、別所では、田地100町歩(100ha)余りの農業を主体に、山林事業などをプラスした複合経営を進めて、魅力ある地域づくりに総力をあげています。

同地区に入ると、細い道をはさんで両側に家が立ち並び、小さな火の見やぐらも見受けられる。ここまでは、他の集落と何ら変わりはないのですが、やがて中央へと進むと左側に湯煙りに包まれた共同浴場が見えてきます。……昭和38年に鉱山が探鉱ボーリングした際にお湯が湧き出たもので、その後、同地区がその権利を譲り受け浴場を建設したものです。以来、ここは地区民のコミュニティサロンとして利用されてきました。

「温泉が、地区民相互の親睦にはたす役割は大きく、町内に関することも温泉につかりながら話し合うといったところです。また、みんなが裸のつきあいということで、世間によくいう世代の断絶はここにはありません」とは同地区会長島山常吉さんのお話し。また、地区の人たちは「温泉が沸いてから、神経痛で悩む人もほとんどなく、燃料代は全くいらぬし……」と声をそろえて言う。省エネ時代にはまことにうらやましい限りです。



もうひとつ、同地区には共有財産として、およそ100町歩(100ha)ほどの山林があります。

これは、一昨年市から無償譲渡されたものですが、本来は別所地区のもの。市との合併により市が所有していたものですが、地区住民の長年にわたっての要望により還ってきたものです。

同地区では、早速、雑木を切り倒し、60年先を見越した杉の木を植林事業に着手しました。山林の管理は、地区民一人一人が責任をもって行うということで全世帯に1町歩(1ha)ずつ配分されています。

同地区はその自然環境により、昔から農業プラス林業を生活の糧としてきましたが、子孫のために住民みんなが、休日を利用しては育樹作業に汗を流しています。

また、牧場や育苗センターなども設置するなど、地区民全員が一丸となって住みよい地域づくりに取り組んでいます。

市民のみなさん、新しい年のこの1カ月の成果はいかがであったでしょうか。きびしいと言われる年だけにお互いに毎月を総括して行きたいものです。

安全とご健康を

好天に恵まれ、静かに迎えた新春でありましたが、早朝から活発な動きがありました。3万5千人を超える初詣がそれであり、山岳会員の方々20名が鳳凰山元旦登山をし、市民の繁栄と安全を祈願していただいたこと、そして約150名の老若男女のご参加による元旦マラソンで市民に健康づくりを誇示していただいたことです。

そして又、6日には650名の勇壮な姿の消防団員の出初式で無災害を訴え、翌7日には25名の交通指導隊員の初出式で市民の交通安全を祈願していただきました。このように、多くの方がこの一年間の市民の安全とご健康を祈っていただきましたが、これに応えるべく市民一人ひとりが最大の努力を払って参りたいものです。

他人ごとでない……回りのもの

耕作している田んぼ(つまり生命づなです)の12%も土地をもっていないながら生産できないことは大変なことです。ところが、他人はどうであれ自分には関係ないという風潮が年々高まって来ているようですし、更に深まりつつあるとも指摘されています。

農業者が減反で苦しむことは、購買力を失うということであり、購買力を失うということは、他の業種にそれだけ影響するということです。とすれば減反は農業問題で、自分とは無関係と思うことは間違っています。

これは単に農業だけでなく、他のことも同じです。とするならば、共々悩み、苦しみ、打開の道を求め合わなければならないと思います。素人の智恵で結構です。その中にごそ新しい発想、アイデアがあるかも知れませんが、遠慮なしに出し合いたいものです。



No. 8

活力源にしたい

従業員600名の医療器具を生産する工場を誘致することができました。これには知事並びに当市選出の県会議員の方々から大変なお力添えをいただきました。市民の皆さんと共に厚くお礼を申し上げ、立派に成長させることを目指しています。

とが何よりのご恩返しであると存じます。

当市の人口は、このところ停滞しておりますが、平均年齢は高まる一方です。長寿で平均年齢が高まるのであれば喜ばしいことですが、そうではなくて、若い方々、とりわけ学校を卒業したばかりの優秀な後継者を、地元で職場がないという事情で失っており、そのことが原因となっているのです。

今、誘致した工場はそういう意味で雇用の拡大、とりわけ若い活力を確保するという立場から意義が大きいと思います。これで満足するものではありません。更に誘致を進めなければなりませんし、それよりも、地場産業である、農業、山林木材等、鉱業とその関連産業を起すことも進めなければなりません。

ひとつの転機に

2月1日は年祝い、33才の女ざかり、42才の中年の重鎮、62才の年輪、それぞれ意義深い年祝いでありお祝い申し上げます。

そもそも、お祝いでなく厄払いであるそうですが、今日ではもうそんなことは関係ありません。人生の中のひとつの区切りと申しますが、社会的に認められた、ひとつの反省期とでも言うことができると思います。

それぞれの立場における役割分担、働き盛り、大きく期待されているのがこの年祝いであります。ご奮闘を祈念申し上げます。

島山 恒太郎

2月25日 国税相談日 場所・市役所第一会議室